

平成22年7月4日(日)大井中央公民館 参加者42名

14:00 開 会

- ・市長あいさつ
- ・自己紹介(教育長、総合政策部長)
- ・財政状況の説明(総合政策部長)
- ・老朽化する公共施設の説明(市長)

参加者：借入れ残高が約264億円があるが、合併特例債の残高がどのくらいあるのか。

市 長：約47億円が合併特例債の借入です。借入れは借入れですが、有利なものです。子供にツケをまわさないとは、借金を全くしないというものではありません。今、有利なものを使わないと、将来の子供に負の遺産を残してしまうこととなります。

参加者：国は、市町村の数を少なくする政策だったと思うが、旧大井、上福岡、財政が厳しい同士が合併して大丈夫かと思た。どうやって返済していくのか。

市 長：確かに財政的には双方よくなかったが、厳しいもの同士だからこそ、行政経費を減らさなければならぬ状況で、市長、副市長など半分になり、議員数も44人から合併後26名になりました。議員はいま欠員で25名ですが、年間1億8百万円の節減になっています。交付税の面でも優遇され他市からもうらやましいと言われます。特例債も返済能力がなければダメなので、行政経費の見直しを図って足腰を強くしたいと思います。

参加者：耐震化、老朽化を直すのも金がかかる。何事もメリット、デメリットがある。特例債も今後私達の生活にどのようにのしかかってくるのか不安。住民からみれば公共施設は近くにあってほうが良く、高齢化するなかで適正配置という名の元に遠くなるのは違うと思う。庁舎の問題も激論を交わした上で、きちんと示してもらわないと、良いも悪いも判断できない。支所でテレビ電話の話もあったが、早急に実現してほしい。ふじみ野市での行事で上福岡地区が多く参加しづらい。行政サービスも均等に受けられるようにしてほしい。

保健センターがある日突然閉められた。とても不安だ。

市 長：確かにいままで、情報の提供が足りないという部分を痛感しています。厳

しい財政状況を克服した後の夢を描くお話ができていません。ふじみ野市の高齢化率は20.8%、超高齢社会の一步手前ですが、両地区には人口増加の余地もあります。子育て世代が住みつくまち、まちの活気を取り戻したい。その一方で、経費を切り詰めなければなりません。今年度の予算は、1週間以上かけて市長査定を行い、行政経費を削減して3億円の税込減を穴埋めし、昨年度並のサービスを維持しました。

公共施設も近いところが便利です。利用率が低いところもあるので、距離的な判断、検討が必要です。庁舎については、埼玉県庁のように耐震補強工事をするというのも一つの方法ではないかと思えます。テレビ電話も一つの例ですが、福祉サービスの中でどこまで有効なのか検証し、可能な限り実現したいと思えます。催しものについては、合併後、両地域で偏りが無いようにしていますが、そう感じるならば、こちらからの情報発信も足りないのだと思えます。施設の配置は、今の提言を踏まえて検討してまいります。

参加者：保健センター裏の緑ヶ丘分館の件。電気のブレーカーは分館にも付いているが、保健センターの元が切れるとどうにもならないので分館でも対処できるようにしてほしい。亀久保の端に住んでいるが、下水整備も何年くらいでできるのか、是非早くお願いしたい。

市長：緑ヶ丘分館の件は調べます。

調整区域については、下水道の整備は課題も多く、その部分だけで解決できるものではなくて下から上へと整備しなければならないので、全体的なつながりの中で考えさせていただきます。雨水対策も各所で問題が山積していますが、昔と今の降雨量が違い大変苦慮しています。緊急度と優先度を考えながら対策を講じてまいります。

【個別回答】

緑ヶ丘分館の電気系統は、隣接する保健センターと連結し、保健センターに主のブレーカーが設置されています。今までも、分館の電気が落ちるという相談があったため、平成22年12月10日工事を行い、分館のブレーカーを30アンペアから50アンペアにあげる対策を講じました。通常の電気機器であればブレーカーが落ちることなく使用できると考えております。

参加者：6年前上福岡に引越してきた。グループホームで管理者をやっていた。今は新座でやっているが、高齢者の方に携わってきて、大なり小なり認知症を抱えているが、皆生まれた場所、育った場所で最後を迎えたいというふ

うに思っている。ふじみ野市は今後、高齢化が進み、尚かつ子育て世代を迎えたいという中で、福祉とか生活でどのようなまちづくりをやっていこうとしているのか。公共施設も稼働率が低ければ、他の目的に転用したらどうか。使わない施設を修繕してもしようがない。デイサービスなどに有効利用するべき。

公共施設だけでなく、遊休の財産などを活用した施策が必要ではないか。例えば、子どもたち（待機児童）から、お年寄りまで寄り合う施設を行政がバックアップするなど。『地域寄り合い所』について具体的なニーズを調べてた上で、施設、まちづくりを行ってほしい。そのためには、自分自身も協力させていただく。

市長：大変厳しい状況のなか、日本一安心安全なまちにしたい。第一に子どものこと、学校の耐震です。外壁がひどい学校もありますが、先ずは見た目より、安心安全を優先しています。介護施設等について、大型の老健施設などは近隣に比べ多い状況です。平成23年度から介護計画を立てますが、近隣より手厚くやっていこうとしています。

寄り合い所について金沢でも、同種のやり方を見ました。学校の一室を使っているの、休み時間に高齢者と交流を図っています。様々な公共施設の運営の中で方策を探ってまいりたいと思います。

参加者：団塊の世代が定年後、家に入っているが、働ける人、ボランティアなど、どのようにして外へ出すのか、行政の中に取り込んでいっても良いのではないか。行政の一番下の支えになれるはず。生涯学習の件、日高市は25年にわたり一生懸命取り組んでいる。その中で大学教授を囲んでのディスカッションなどがあり、大変レベルの高い話に関心した。子どもの施策も必要だが、ボランティアができる高齢者の活用も考えてもらいたい。行政経費の削減にもつながるので、活用を図ってほしい。

市長：まちの経営を考えたとき、今後は行政だけでやっていけるものではないと考えます。子育て施策と高齢者施策の両輪が必要です。市民の皆さんの協力が無ければやっていけません。マニフェストでも『日本一元気なシルバー世代を目指す』と掲げたとおり、人材バンクを創設するなどして取り組んでまいります。経験と知識をお借りして、一緒に諸問題に取り組んでいきたいと思えます。

参加者：合併して5年経つが、旧大井が寂しくなってきたと感じる。支所について老朽化で危険なので壊すように聞こえる。年をとると役所に行かなくてはならないケースもある。循環バスも本庁に行っているが時間がかかるし、

便数も少ない。シャトルバスも考えてほしい。

子育て世代の件、東京では、児童館で午前中子供の関係の事業をおこなっている。子育ての交流の場や学童保育、児童館といったものが複合化している。そういった施設を考えてほしい。

市長：これまで12回やってきて、バスについてはまったく逆の意見もあり、議会の中でも費用対効果について疑問視する声もあります。そんな中、バスは市で所有しているので、片側エリアから両地域に拡大する方策をとってみて、駅へのアクセスも追加したので、今後の利用状況等を見て検証作業を行いたいと思います。今は、合併後の不均衡を一つひとつ改善している状況です。支所の窓口サービスの件は、優先的に手をつけなければならないと考えています。

参加者：以前引っ越ししてきた直後はまったく地域貢献などしていなかったが、今はPTAの役員や学童の委員など引き受けている。回答は要らないが意見として話したい。タウンミーティングはとても良い企画だと思うので、中高生や大学生、サラリーマンなど各世代ごとや、土日だけふじみ野市にいる人たちの意見を聞くような方法も考えてほしい。

重複する施設については、合併前から分かっていたことだと思うし、長い目でみた判断をしてほしい。

上福岡、大井という区割りがあるのも寂しい。一つのふじみ野市としてやっていただきたい。

防犯無線メールに登録しているが、事件が毎日入ってきて、都内で仕事をしていても不安を感じる。まちに犯罪が無くなるように努力してほしい。

職員の意識改革について、以前市役所に行ったとき、通路に出前のどんぶりが置かれていた。支所に行ったときは電気がついていないところがあった。女性の服装もサービス業にそぐわない人もいた。その辺から変えてほしい。改革が必要だ。

市長：タウンミーティングは今後もやり方を変えていろいろな世代との交流も含めて実施したいと思います。庁舎も市民の利便性を第一に特例債のことだけでなく考えていきます。区割りの件については、分かりやすいのでそのような言い方になってしまうが、なるべくそうならないようにします。犯罪を減らし、日本一安心・安全なまちにしていきたい。職員の関係では、当たり前のことですが、市民はお客様、株主という意識が必要で、不愉快な思いをさせないよう徹底してまいります。

参加者：道路の立て看板などが、いまだに『大井町』になっているところがある。

シールを用意してくれれば、私達が散歩がてら貼り替えることも可能だ。危険箇所のカーブミラーのサイズを大きくしてほしい。亀久保4丁目10-1番地。C-158番。国道254の抜け道になっていて危険である。R2200をR3000に。

市長：道路の標識に限らず、旧市町の表示がいまだに残っています。大変ありがたいお話しであり、お力を借りて進めたいと思います。
カーブミラーの件は後日、回答いたします。

【個別回答】

提案いただきました道路反射鏡についてでございますが、曲率の変更につきましては車両に対する遠近感を統一しているため変更はしておりませんので、サイズの大きい物に交換いたします。

参加者：ごみ置き場が設置されていないところが多い。市の問題なのか、自治会の問題なのか。道路にはみだして置いている。
赤ちゃんが遊べる施設が少ない。荒川区では、赤ちゃんとお年寄りが交流できる広場館があり、ふじみ野市にもそんな施設が欲しい。

市長：ごみの集積所の問題については、旧上福岡も旧大井も一緒に、新しく開発される住宅だごみ置き場はつくっていますが、以前からの住宅はそのような集積場所は少ないです。地域で協力してやっていただくしかありません。
赤ちゃんの遊び場やみんなで集う施設については、可能であれば少しずつでも進めていければと思います。先進地の状況も見に行きます。

参加者：老人会をやるのに循環バスを利用していたが、ダイヤ変更で利用しづらくなった。

部長：老人会のバスは今までと同じです。

参加者：両方の公民館について、障がいのある人たちに分かるように、光や音でのお知らせシステムを導入して欲しい。

市長：要望は分かりましたので、検討課題とさせていただきます。

参加者：基本健診が有料化されて3年目になる。以前のように無料化して欲しい。

早期発見、早期治療という観点からもお願いしたい。その方が医療費もかからない。検査項目も減らさないで欲しい。

市長：一部負担のお願いは受益者負担の考え方です。千円を無料にするというのは今の現状では難しいです。医療費を抑制したい思いは同じですが、検査の項目は減らさないよう、要望としてお伺いしておきます。

参加者：大井のプールを新しく建設するという話を聞いたが、改修で十分。排水溝の改修だけで十分。図書館は大井地区1箇所、上福岡に2箇所。本館と西公民館にある。経費の面からも1箇所で十分。図書数も少ないので統合してほしい。循環バスは便数が少なくなったが、増やすのならバスのリースの考えはあるのか。

参加者：精神的福祉施設である図書館については、どのような位置付けなのか。

参加者：鶴小の特別支援学級に通っているが、他の学校に比べて生徒に対する先生の数が少ないので増やしてほしい。学童保育も毎日110人近い利用がある。狭すぎるので早く2つに分けてほしい。来年度から学童は指定管理者制度になっていくようだが、営利目的の業者に入りこまれて、保育の質を落とされないかとても不安。安心して預けたいのだが、大丈夫なのか。就労支援や作業所等を一カ所でも増やしていただきたい。

市長：大井プールは今年度取り壊します。救出する際に、かなり破壊したので利用はかなり難しいです。ご遺族の心情にも配慮しプールについては、当面更地です。テニスコートの話もありましたが、あの土地の権利所有関係が複雑なので、土地の再利用についてはまったく未定です。
西公民館については司書を配置していません。図書館は今すぐ2つを1つにすることは考えていませんが、運営方法などは考えていきます。
バスのリースについては、バス1台につき運転手も1人では済まないで、バスの利用状況調査も踏まえ今後検討してまいります。

教育長：鶴小の特別支援学級について、13人で6人はかなり高い水準ですが、今年も増やしました。学校間の偏りは今後解消したいと思います。

市長：鶴小の学童について用地取得に課題があって時間を要しましたが、来年度には2つのクラブに分かれて開設します。指定管理者の件について、保育料も激変緩和措置として12,000円を9,000円に下げ、所得状況により減免もあります。保育水準を落とさないことが、まず大切であり、

民間でも営利目的でない業者を選定し、今の指導員が変わらないような配慮もしてまいります。

16:25 閉会